

# 令和4年度授業研究部(中学校)

## 第1回例会

2022/6/8

本年度の例会は、対面とZOOMのハイブリッド方式で行います。第1回例会当日は、会場とZOOM合わせて17名の先生方にご参加いただきました。

第1部では、振甫中学校の熊谷太志先生を講師に迎え、「読むことの授業」について学習しました。

第2部では守山東中学校長の犬飼雅人先生を講師に迎え、「授業の導入」について学習しました。

第1部、第2部ともに、参加された先生方の意見を交流したり、若い先生方の疑問に答えたりと非常に有意義な時間となりました。

### ○ 第1部 「読むことの授業」について

#### 1. 先生と生徒の違い

国語の先生は文章を読むことが得意

→「生徒がわからない理由がわからない」ことってないですか？

**「生徒は何がわかっていないのか？」**

**「生徒は何につまずいているのか？」**



生徒のニーズを把握することがとても大事です。

#### 2. 説明的な文章の授業について

##### (1) 説明的な文章を学習する目的

「教材 **を** 教える」× 「教材 **で** 教える」○

※使い古された言葉ですがとても重要！！

説明的な文章で何を教えるのか

「自分の考えや意見を正確に伝えるための方法」

→ そのために文章の構成や、具体例の提示の仕方を学ぶ。

(2) 説明的な文章の構成について考える

大段落に分けていますか？分けてさせていますか？

○ 説明的な文章の基本的な構成

序論→本論→結論（一般的には三つの大段落で構成される）

○ それぞれの役割

序論 話題の提示

本論 話題にかかわる具体的な事例

結論 本論にある具体的な事例から導き出される抽象的事象



説明文を学習する際は、常に授業の中で構成を確認していると、生徒たちが段落を分けられるようになります。

どのような学習活動でも、授業の中で同じ活動（例:構成を意識させ、段落分けをさせる）に一貫して取り組ませると、徐々にできるようになります。

ですので、「育てたい力」に対して有効だと考えられる活動に、どの教材でも取り組ませることが大切になります。

○ 第2部 「授業の導入」について



**めあてをつかむ**

「めあて」  
子どもにとっての  
解決すべき問い

「課題」  
教師が子どもに  
解決させたい問題



「めあて」と  
「課題」では主体  
が異なります。

**めあてをつかむ**

**めあてを与えるだけでなく、子どもが自らつかむようにしましょう。**

前時に〇〇しましたね。  
～するには、次に何について考えていきますか。

～について考えよう。

なぜ、～なのかを考えたい。

単元のゴールを意識させ、そのゴールに向けて本時では、「何ができればいいのか」「何が分かればいいのか」を子どもに意識させます。それを通して、「～について考えよう」「なぜ～なのか知りたい」といった問いを、子どもから引き出すようにしましょう。

めあてを与えるだけでなく、  
**子どもが自らつかむ**ようにしまし  
よう。

問いを、**子どもから引き出す**ように  
しましょう。

「めあて」を子どもが自らつかむために、「問い」を子どもから引き出すためには、どのようにしたらいいのでしょうか？  
「工夫していることがあるのか、ないのか。」あるならば、「どのような工夫をしているのか？」自分の授業を振り返ってみましょう。

※ 生徒が自ら「めあて」をつかむための「導入」の工夫

## 対比させることで、「ズレ」の意識化・共有化を図る

<初読の感想を紹介する時>

AさんとBさんの感想では、  
〇〇という部分の解釈が異なりますね。みなさんはどう思いますか？



教師の揺さぶりの発問も効果的



どっちなんだろう？  
教科書を読んで**確かめたい**！

「物語」の授業を例に、「問い」を子どもから引き出すヒントを示します。

物語の授業の1時間目に全文通読と初読の感想を書かせます。それを受けての2時間目では初読の感想を紹介します。

初読の感想を紹介するときに「Aさんの感想とBさんの感想では、〇〇という部分の解釈が異なります。みなさんはどう思いますか？」といったことを子どもたちに投げ掛け、ズレの意識化、学級全体でのズレの共有化を図ります。

または、教師が揺さぶりの発問を投げ掛けてもいいです。「同じ文章を読んでいるのに、どうしてこのようなズレが生まれるのかな？」

ズレが生じたら子どもたちは確かめたいと考えます。ここに学びのエネルギーが生まれます。

この後、会場参加者の方から授業作りで困っていることについて、二人の講師の先生や経験豊かな先生方と話し合う時間をとることができました。

※ この内容についてのお問い合わせは、振甫中学校熊谷までお願いいたします。